

経営比較分析表（令和5年度決算）

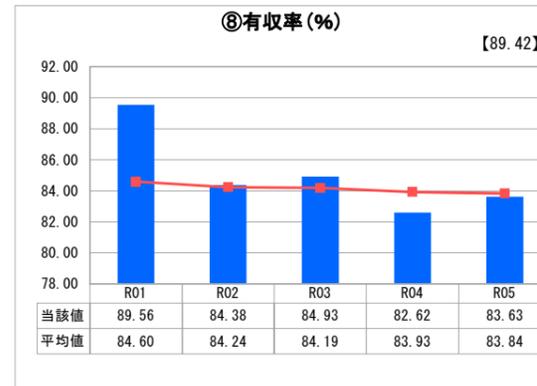
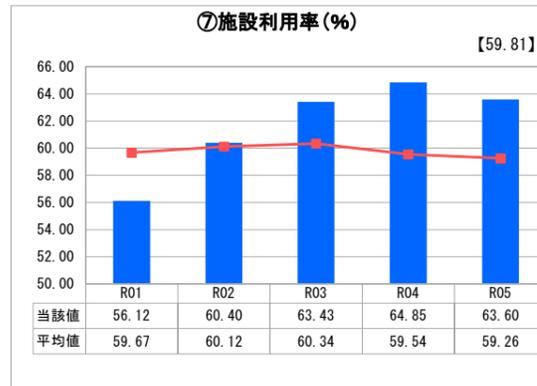
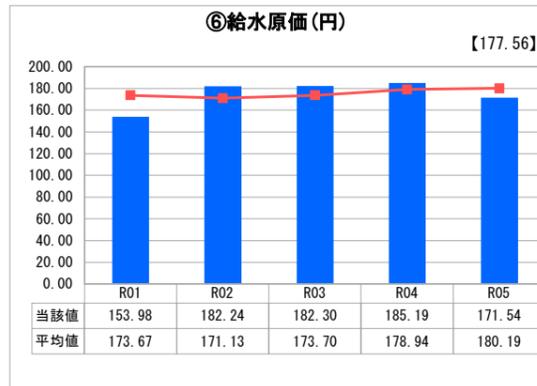
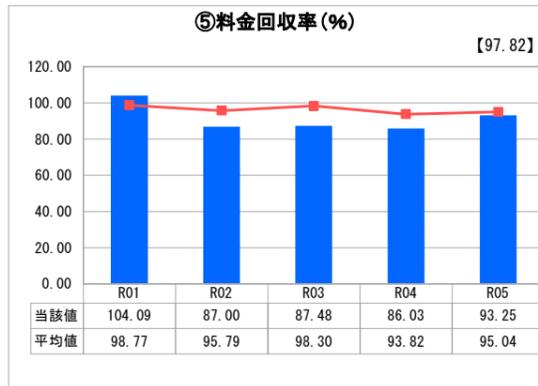
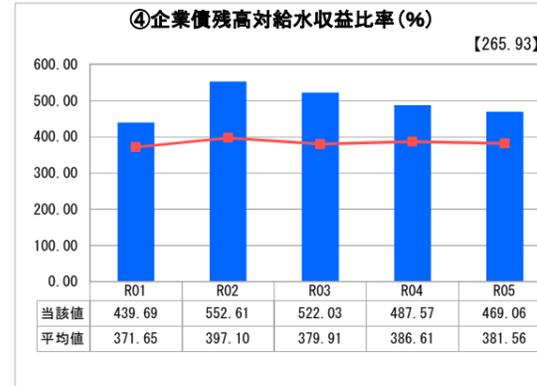
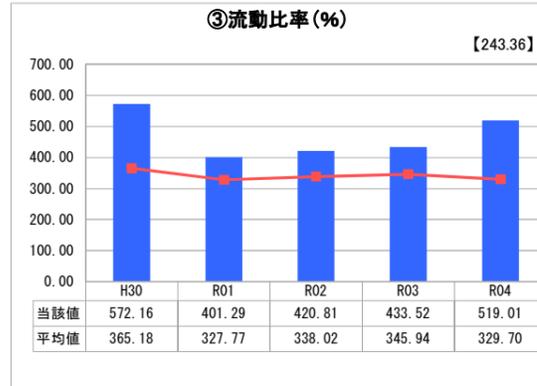
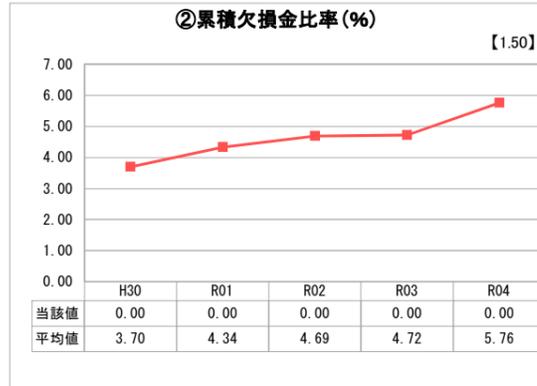
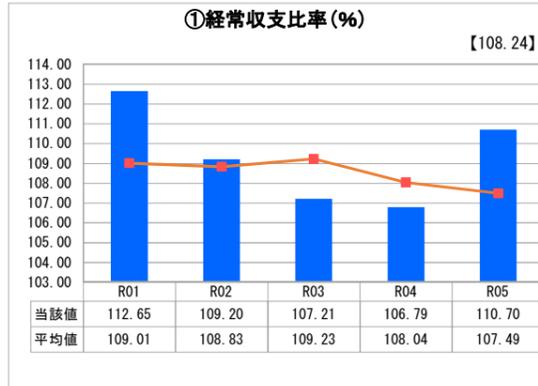
大分県 日田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	67.85	77.70	3,160	

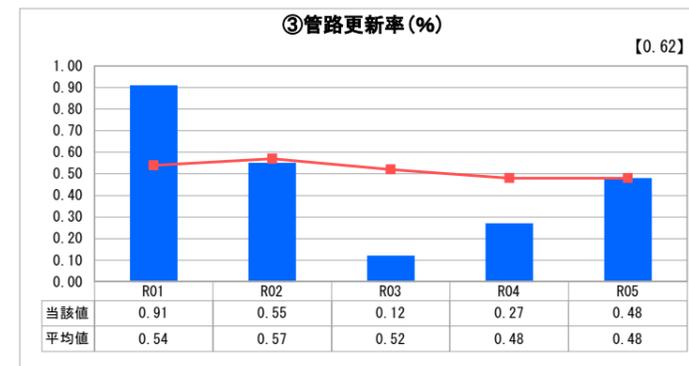
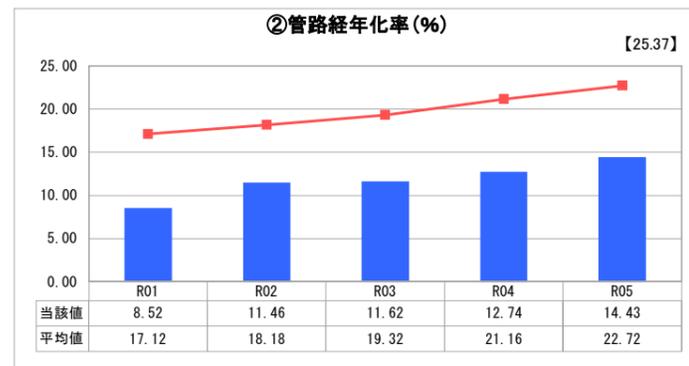
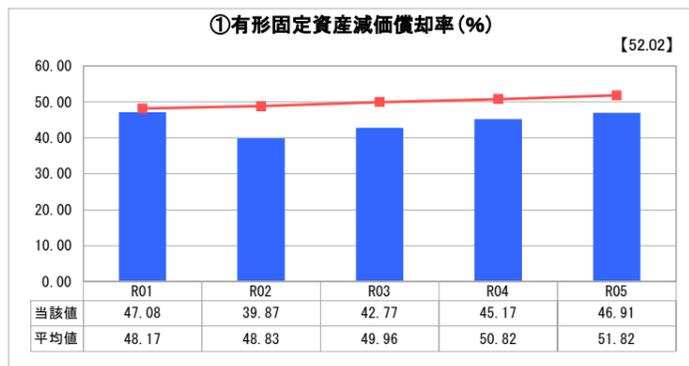
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
61,125	666.03	91.78
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
47,043	76.60	614.14

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 100%を超えた数値となっているが、近年は概ね低下傾向にあり、更なる費用削減を行っていく必要がある。
- 累積欠損金は発生しておらず、概ね健全な経営状況であると考えられる。
- 令和2年度以降、簡水統合に伴う流動負債の大幅な増加により、流動比率を押し下げていたが、流動負債の減少に伴い、増加傾向にある。
- 簡水統合したことで、企業債残高が大幅に増加し、当該指標の増加の原因となったが、今後も施設更新が予定されており、それに伴う企業債残高が増え数値が高くなっていくことが予想される。
- 令和2年度以降、簡水統合により、100%を割り込んでいる。今後は、水道料金の妥当性を検証し、適切な料金収入の確保を目指すとともに、更なる費用削減を行っていく必要がある。
- 令和2年度以降、簡水統合に伴う費用の大幅な増加を受け、数値が悪化している。今後は、更なる維持管理費の削減といった経常費用を抑える経営努力が必要と考える。
- 第7次変更届出により、一日配水能力が減少したことに伴い、数値が高くなった。今後については、給水人口の減少を見据え、予定されている配水池の更新事業では、施設のダウンサイジング等を検討中である。
- 令和2年度の簡水統合以降、現状の水準が続いている。今後、衛星漏水調査結果等をもとに、配水管等の漏水調査を実施し、有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

- 簡水統合や施設更新に伴い、未償却資産残高が増加したことで、平均値より低位で推移している。今後は、水道事業基本計画に則った計画的かつ効率的な施設更新を行う必要がある。
- 現時点では、平均値よりも低位で推移しているが、今後更新時期を迎える管路が増加する事が考えられるため、水道事業基本計画に沿った計画的かつ効率的な管路更新を行うと共に、更なる費用削減等を行い、財源を確保していくことが求められる。
- 依然として、管路更新が進んでいないため、今後は水道事業基本計画に則った計画的かつ効率的な管路更新を行う必要がある。

全体総括

令和2年4月1日に、旧簡易水道事業を統合したことで、数値が悪化した指標が多く、今後も、施設等の老朽化に伴う更新が、大きな負担となることが予想される。
 今後は、水道事業基本計画に則った施設の更新やダウンサイジングを実施することで、人口減少に伴う給水収益の減少に備えて、財源の確保に努める必要がある。